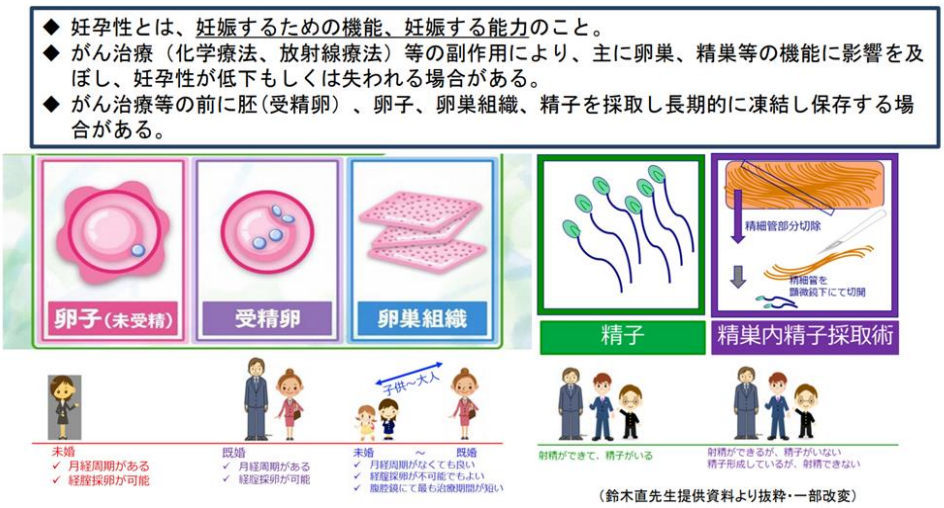
認定看護師ニュースレター第７８報

がん化学療法看護認定看護師の原田里香です。
抗がん剤治療を受けられる患者さんやそのご家族が少しでも安楽に治療中の生活を送ることができるように支援したいと思っています。また看護師が安心して化学療法を行えるように相談を受け、教育・指導を行いたいと思います。南館１階の化学療法室にいつでもお声掛けください。

昨年１２月に福岡県で開催された「日本がん治療学会学術集会」に参加してきました。
この学会は、がんに関連する学会の中では学会員数が多く、医師・薬剤師・看護師・リハビリテーション技師・栄養士など多職種が参加します。３日間にわたって開催される学会期間中は自分が興味のあるテーマの講演や発表を聴くために毎日２万歩以上歩きます。
　今回私が参加した動機の一つとして、「がん患者さんの妊孕性（にんようせい）に関する支援」の知識を学びたいという思いがありました。
「妊孕性」とは“妊娠できる力”のことです。抗がん剤によるがん治療は、その薬剤の種類によりますが、卵巣機能や精巣機能に大きな影響を与え、無月経や無精子症などを引き起こすこともあります。
近年がん罹患患者の若年化により、令和３年度からは「小児・AYA（思春期・若年成人）世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業」が開始され、若いがん患者さんが希望をもって病気と向き合い、将来子供を持つことの希望をつなぐ取り組みが全国で開始されています。
その取り組みに参加するためには、そのことを理解し説明できる知識を持った医療スタッフが必要となります。特に県北部では妊孕性温存療法を受けるための施設が長崎市内にしかなく、その実際の内容に関して知識を習得することも難しい状態であることを以前より痛感していました。
今回学会に参加し、幸運にも聖路加国際病院で妊孕性について活動をされている「不妊症看護認定看護師」の方と面談させていただき、開催されている勉強会の情報や、聖路加国際病院にある電話祖団窓口の情報などをいただくことができました。
これからになりますが、皆さんのお役に立てるよう勉強していきたいと思います。